

令和2年1月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

令和2年1月の業種別景況の前月比DI値は14業種の内、好転が2業種、前年同等が8業種、悪化が4業種で、全体の景況感DI値も令和元年12月より悪化している。

繊維工業、運輸業では、受注量も多く忙しいとの報告であるが、小売業からは、暖冬の影響により季節商品の販売が不振であった、また、サービス業では、新型肺炎の影響が出始めたとの報告である。

山口県の中小企業は、深刻な人手不足が続いており、人材確保に苦勞している。また、消費税増税による消費の低迷や新型肺炎の影響を心配している。

山口県の主要指標 DI 値 (令和2年1月末現在)

※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況 (< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)

前年同月比は、好転：0.0% 悪化：38.8% DI値：▲38.8% ポイント

売上高 (< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)

前年同月比は、増加：12.5% 減少：40.0% DI値：▲27.5% ポイント

収益状況 (< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)

前年同月比は、好転：5.0% 悪化：32.5% DI値：▲27.5% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況) (令和2年1月末現在)

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲28.6	▲25.0	▲66.7	▲50.0	▲33.3	▲33.3	0.0	▲33.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業
▲60.0	▲50.0	▲100.0	▲36.4	▲18.2	▲42.9	0.0	▲42.6
							

全体
▲38.8


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	年末年始は休暇が長く、気候も穏やかであったため、土産菓子、交通拠点での販売は堅調。一方、働き方改革等の影響で休日の雇用確保が一層難しくなっている。	パン・菓子製造業
	売上は 1/22 時点で対前年同月±ゼロで推移。年末年始(12/27～1/05)は9連休効果もあり昨年同期間比で108.9%と好調に推移した。例年のごとく正月明けの6日からの週は、その反動減で売上が低迷した。海水温の低下が遅れ、主力商材のマフグ漁のシーズン入りが遅れている。昨年10月から導入したキャッシュレス5%還元については、幟旗やPOPで積極的にPRしているが、その効果はいまのところあまり見られない状況。キャッシュレス利用率は物販で10%、飲食で25%程度。	水産食料品製造業 萩市
	消費増税の影響がじわじわと感じる。特に関東、関西圏以外は低調。運送費の値上げが高まり、非常に困っている。新型コロナウイルスの影響は未知数。	水産食料品製造業 下関市
	記録的な暖冬傾向により、野菜の供給量過多による価格下落がおき、野菜農業者の経営を圧迫している。また、雪不足による稲作経営の水不足の懸念など、天候による経営リスクが高まっている。中国で新型コロナウイルスが発生し、武漢地域が閉鎖されるなど、想定外の事態が発生している。いわゆる突発的な想定外の事態である「ブラックスワン」に対応できるような経営の仕組みの構築が必要となっている。	精穀・製粉業
繊維工業	年度末に向けての受注増。2月、3月の生産はキャパオーバーに近い状態。4月以降の引き合いもあり。	外衣・シャツ製造業 萩市
	昨年同月は仕事量が極めて少なかったが今年は順調に出ている。技能実習生も昨年11月の入れ替えではあったが技能習得を研修計画通りに進めて、元気に頑張っている。従業員の健康には特に配慮している。	外衣・シャツ製造業 山陽小野田市
木材・木製品	消費増税の影響による売上減が感じられる。輸送費高騰により地方がより不利になっている。	製材業・木製品製造業
印刷	1月は閑散期であるが、前年並みの受注量は確保できているようだ。	印刷 下関市
	受注物件が減り、売上も大幅に減った。	印刷 山口市
窯業・土石製品	(平成31年1月) 骨材121%、路盤材163%、再生材 89% ↓ (令和2年1月) 骨材 72%、路盤材 82%、再生材114% 出荷数量激減。	砕石製造業

	出荷量は、前月比103%、前年同月比117%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	今年の冬は暖かく、加工・設置は順調に進み、工期の遅れ等の話は聞かない。仕事量については、相変わらず減ってきている。	石工品製造業
	1月の萩市内小売店の売上は昨年と比較しやや減少。ギフト・卸関係・百貨店の受注も昨年と比較しやや減少。萩・明倫学舎の売上はアップ。現在、次年度の新規開催予定の共同販売事業について検討している。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	業界は、毎年1月の仕事量が減る傾向ではあるが、今年は皆それなりに仕事量があるようで、悪くもなく、良くもなくといった感じ。外注費が高騰している模様である。	下松市
	景気は、ここにきて先行き不安材料が増加の傾向にある。自動車関連は中国の景気動向に左右されている。鉄工構造物は3月までの受注はあるが、その後が不透明。東南アジア関係は、夏以降の受注が見込めない状況。アメリカ大統領選がらみで、米・中の貿易摩擦がいくらか緩んでいるように見えるが、最大の関心事は、12月に発生した中国武漢市のコロナウイルスの影響により生産の停滞をはじめ、旅行・飲食業・商業など大半の経済活動にブレーキがかかりつつあるのが心配である。	防府市
	食肉加工、惣菜、自動車関係等技能実習生を入れている大半の職種で業績は好調であるが、中堅企業においても人材の確保に苦慮している。なお、半導体関連は人員の確保に舵を切り始めたところであったが、アメリカとイランの紛争の見通しに不安を感じ、慎重な対応になってきている。介護職については引き続き要望が多いが、他の業種に比べ準備期間が長くかかるため、全ての要望に応えるには人材の確保に時間が必要である。3号移行者の入国は順調で、即戦力として活躍している。特定技能については手続きが不明な点が多く時間が必要で、今後の対応については慎重を期す必要がある。建設業において人材の確保が非常に困難な状況。	宇部市
	大口の受注案件が4～9月に集中している為、次期は低調に推移する。	下関市
輸送機器	鉄道車両は短時間作業が続いているが、更に、北陸新幹線の水没車両生産の追加作業が加わるため、作業効率が課題である。半導体は右肩上がりの高い作業量水準が継続している。産業プラント部門が少し減少気味ではある。人材確保と働き方改革の工夫が課題である。増産態勢で対応してはいるが、短納期の仕事が多いため仕事の引き受けが出来ない組合員もいる。今は忙しいが、2～3年先の見通しが不透明なため大規模な設備投資が難しい状況。	鉄道車両・同部品製造業

卸売業	海苔の高値が続いており、入庫が前年同月比で37.9%減少した。海水温度の影響が大きい模様。	乾物卸売業
	魚の入荷が少なく、単価もなかなか下がらない。	生鮮・魚介卸売業
	中東の緊迫等により燃料価格が上昇傾向にあるため、配送コストに影響がある。例年より海水温が高いため海苔の成長が早いらしく、2月～3月の資金調達に影響がある。	各種商品卸売業 山口市
	商品の原材料の値上げと消費増税により値上げが相次いだ状況の中、顧客離れを防ぐため出来る限り顧客のニーズに応える事が出来るよう試行錯誤している状況である。従業員の高齢化に伴い、若手従業員の確保とともに高齢者への就労促進をしている。	各種商品卸売業 下関市
小売業	組合員店舗では消費増税および暖冬の影響で、先月と同様にクリームや美容液などの高額化粧品が売れないとのこと。その分売上も伸びないので前年と同等の売上を出すのが厳しいと言っている。2月には春の新色としてルージュやアイカラーなどが、各メーカーよりどんどん新発売されるが、売上を伸ばすためには、予約活動をどのくらいしているかが決め手となるであろう。後は季節相応にどれだけ寒くなり乾燥するかでクリームなどの売上が伸びると思う。	化粧品小売業
	暖冬の影響か、暖房器の販売不振。	機械器具小売業
	アパレル業界は年明けからバーゲン販売を実施するも、消費全体が活気づかない。飲食店は新年会需要が少なくなり、相対に客が少ない。小売業の28（ニッパチ）はヒマというが、近年では1月も低迷している。加えて岩国市長選挙が行われ、ますます消費はこう着した。	各種商品小売業 岩国市
	暖冬の影響か、ツリー祭りなどの夜間来街者は例年並みの感じであった。	各種商品小売業 周南市
	令和2年になり、暖冬とはいうものの、商店街内の入街者数は激減している。商店街に足を運んでもらえるような策を思案中である。	各種商品小売業 下関市
商店街	例年の冬場同様、人出が極めて少ない。商業での活性化は難しいと痛感する。	宇部市
	1月は多少人が動き、売上に影響するかと期待したが、ある店主は「このままだと閉店に追い込まれるか、支払いの借金が増える」、「何が影響しているのか原因がわからない」と言う。他の店でも「現在のままではいけないと思うが対策が見いだせない」と話す。	萩市
サービス業	民法の改正で2022年(令和4年)4月1日より成人年齢が20歳から18歳に引き下げられることから、2023年の成人式の着付けセットの予約が、美容院にもうすでに複数入っている。2020年の成人式が、終わったばかりだというのに、もう3年後の予約をするという	美容業

	理由は、行政が式典の子細を発表してないからだと思われる。	
	例年、1月は12月の反動と寒さで来店者数が少ないが、今年はこの影響はあまりなかった。今年はインフルエンザ等で来店が遠のく。	理容業
	昨年5月に公布された「改正道路運送車両法」の施行が本年4月1日に予定されている。この改正では、自動運転の実用化に向けた法整備が目的で、現在、国による説明会が各地で行われているものの、整備事業制度が大きく変わることから、この法改正に対応できない事業者も出てくることが予想され、今後、後継者がいない高齢化した整備工場が廃業に追い込まれる可能性があり大変気になるところである。	自動車整備業
	人手不足が継続中。山口県の人口減少は話題になる。	スポーツ・健康教授業
	例年、年末年始明けの売上は多いが、それも落ち着いてしまっている。しかし、これも業者間で差があるようである。また、暖冬の影響で厚手のアウターを着る機会が例年より少ないため、春の衣替えの売上減も心配する声が多い。クリーニング業はその年の気候の影響を受けやすいため、今後生き残るためにはその対策をすることが重要であると感じる。近隣の飲食店は年末年始明けの売上は、例年通りとのこと。	普通洗濯業
	新型肺炎の影響が徐々に出張・旅行に出てきている。2月はもっと影響がありそう。	旅行業
	組合員15施設の前年同月比は、宿泊人員100.3%、売上97.2%であった。今期脱退の2施設を含む前年同月比は、宿泊人員109.2%、売上97.4%となる。前年脱退の2施設が前年並みの宿泊人員を確保したと想定すると、湯田温泉としての宿泊人員は前年同月比プラスで推移したと思われる。年末年始の期間が長かったことが要因と思われる。	旅館業 山口市
	売上高の増加は近隣の入浴施設が改修工事等で休業が続くために利用者が増加。また、去年の自動車道開通による利便性が強化された理由による。	旅館業 長門市
	新型肺炎による観光客の動きが気になる。1月は大きなキャンセル等は発生していない。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請78件(当支部66件)、前年同月67件(同51件)。太陽光発電への申請3件(前年3件)、オール電化申請54件(前年32件)。LED街路灯への切り替え・新設申請19件(前年17件)であった。	電気工事業
	官公需・民間工事を問わずゼネコン及び地元の総合工事業者の受注競争が厳しくなり、それに伴い専門工事業者の受注単価が下がりつつある。技能者不足が進み、日曜日や年末・年始においても出勤せざるを得ない工事が発生している。	左官業

	仕事量はあり忙しいが、人手不足により工事がはかどらないでいる。2月末着工等の民間工事が思いの外多く、2月末締めの公共工事まで手が回らない業者もある。	管工事業
	例年にない暖かい冬ではあるが、仕事の無い冬のこの時期を如何に乗り切るか各社頭の痛いところである。工事量の落ち込みが、結果として価格の低下に繋がる恐れがある。客先との取引条件は年々厳しくなっており、利益の出せる状況にないのが現状。	屋根工事業
	受注物件数、見積件数ともに減少傾向。	鉄骨・鉄筋工事業
	組合員は手持ち工事が十分にあり、不足しているのは技能者であり、工事の進捗に苦勞している模様。建設業も生産性向上やICT導入等叫ばれはするが、最終的には人間の力がなければ何も動かないので、建設業にとって一番苦勞しているのは人材不足に間違いはない。手持ち工事が十分にあっても、利益が出せるかどうか疑問で、人材を大切にしない業者は淘汰されると思われる。	土木工事業 柳井市
	2年1月の受注高は、対前年同月比38.2% 今年度の累計は、対前年比83.9%	土木工事業 萩市
	求人募集をしても若者の応募者がなく、技術者の高齢化が進んでいる。	土木工事業 長門市
運輸業	輸送関係は、長距離物資の急送品以外は船舶輸送にゆだねられ、近距離輸送が“主”となってきたり、中小輸送業者の経営は鈍化しつつある。“働き方改革”により運転手の給料が減少し、一層、若手運転手の雇用が難しくなっている。取扱量の前年同月比は約6.8%の減少。燃料費は1.8円の値上げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
	輸送取扱高は、前年比10%程度の減少となる見通し。自動車関連については総じて芳しくない。来期に於いても悲観的な話しか出てこない。燃料費については徐々に上がっているが、比較的安定している。保管庫事業については安定しているが、設備投資及び大規模修繕により資金的には前年比、少々厳しい。	一般貨物自動車運送業 防府市
	運送においては荷動きが悪くなっている感がある。機械類、化学原料等の減少は米中の貿易摩擦の影響もあるのかもしれない。しかしながら倉庫保管案件は安定して受注があり、新設した倉庫もすでに埋まりつつある。相変わらず人員確保が難しい。仕事はあるが人員不足によりお断りせざるを得ない状況も発生している。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱金額(税込み)は、前年比▲3.5%(令和1年12月1日～令和2年1月20日分)。12月1日～31日分は▲4.4%、1月1日～20日分は▲1.2%。当組合の取扱いタクシー事業者は、光市、下松市、周南市、防府市の地域。12月については、周南▲2.3%、下松▲13.7%、光▲9.2%、防府市地区が▲8.7%で、組合員の全域では▲5.3%、地区外(員外)+7.6%、合計▲4.4%(▲1,279千円)。今回、徳山ボートのイベントを含めての数字であるので、それを除くと、もっと大幅な減少になっているといえる。企業の忘年会等の行事が減少していると思う。主要燃料であるLPGについては、CP(通告価格)と為替に連動している。CPが上がり(前月450.0\$/トンが今月522.5\$/トン、前年417.5\$/トン)、輸送用バンカーC重油は下がり(前月580.0\$/トンが今月625.0\$/トン、前年379.0\$/トン)ました。為替も円安(前月109.90円/\$が110.24円/\$)。燃料単価は前月より+7.4%上昇し、前年比は+10.6%で、平成30年4月の参考単価と同じになっている。タクシー乗務員は労働条件が厳しい(賃金が少ない)事もあって慢性的に不足している。令和2年2月1日から、タクシー運賃の改定が認可され、7%程度上昇する。消費税増税分の改定はあったが、運賃本体の改定は平成20年3月以来になる。当面利用が減少するかもしれないが、疲弊しているタクシー事業者やタクシー乗務員を考えると必要な対策のように思われる。</p>	一般旅客自動車運送業
	1月は、各組合員とも取扱高減少となった。	港湾運送業
その他 非製造業	介護以外(調理)職種の外国人実習生の実習も開始した。組合として他の職種(一般職)の実習は初めてなので、各機関に確認をとりながら慎重にすすめていければと思っている。	介護事業